

牧師室から (2022.3.27)

日本では、3月4月は卒業、入学のシーズンである。英語で commencement は卒業や学位授与を言うが、同時に開始を意味することを、ずっと昔学生の頃習った覚えがある。確かに卒業は新たな人生のスタートでもある。神学校もそれに洩れず、卒業すれば本格的に伝道者としての生き方が開始されるであろう。新たな学校に進学する者、就職する者、また準備をする者、そして教会に赴任する者たちが希望を持ってスタートできるように願っている。

一方、信仰には開始はあっても卒業はないことは周知である。信仰とは、ここまで行けばもう良しとして、これからは別のことに目を向けようとするのではない、一生探求し続けるものである。また人間の尺度で、人の信仰を測ったりすることはできない。であるから卒業は勿論、学位のようなもの、また段や級のように格付けはできないものである。

神学生の頃、学長から、信仰を培うとは今あるものにどんどん積み重ねていくのではなく、積んでいっては崩し崩され、また積み直していく作業の繰り返しだと教えられたことがある。

新しい年度が始まるが、信仰を新たにして共に歩んでいきたいと思う。

「造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」

(コロサイの信徒への手紙 3章 10節)

(鈴木淳一牧師)